



5月の花 ウツギ

アジサイ科の落葉低木で、高さが2mほどの樹木で、5月～6月になると白やピンクの花を咲かせます。別名ウノハナとして、「夏は来ぬ」に唄われる。

ニュース **2024.5.1** Vol. **273**
 とうめい news

〒243-0034 厚木市船子237
 TEL. 046-229-3377
 発行者:河野 昌史
 編集責任者:佐藤 賢治
 印刷: (有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

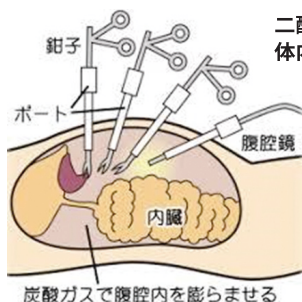
TOPICS

手術支援ロボットを用いた低侵襲手術について 泌尿器科: 岩村 正嗣

4月より北里大学病院から新しく着任した岩村正嗣と申します。専門は泌尿器科で、大学病院では長年、腹腔鏡手術やロボット支援手術などの低侵襲治療に従事してまいりました。東名厚木病院にも腹腔鏡手術支援ロボット da Vinci (ダヴィンチ) が導入され、4月より稼働を開始しましたので、この場をお借りしてご紹介させていただきます。

近代外科手術の歴史は、低侵襲化を目指した手術手技と機器開発の歴史と言っても過言ではありません。侵襲(しんしゅう)とは、手術や検査が患者さんに与える肉体的、精神的苦痛ですが、何とかしてこの侵襲を軽減できないかと様々な手技や機器が開発され、応用されてまいりました。しかしいくら低侵襲と言っても、治療効果が従来の方法に比べて劣るようでは真の低侵襲手術とは言えず、歴史の中で消えていった治療法も数多く存在します。そんな中、1980年代後半に出現した腹腔鏡手術は、従来の開腹手術と同様の手術を内視鏡を用いてお腹を切らずに行うものであり、開腹手術の高い治療効果と内視鏡手術の低侵襲性を併せ持った治療法として一般外科や呼吸器外科などを中心に急速に普及してまいりました。現在、泌尿器科領域では腎臓がんや前立腺がんの手術のほとんどが腹腔鏡手術で行われています。手術の侵襲性が低いと術後の痛みが軽いだけでなく、早期退院が可能となり、社会復帰も早まります。また、特に高齢の患者さんは早期に離床できるため筋肉の衰えや硬直による歩行困難を予防することができます。

腹腔鏡手術



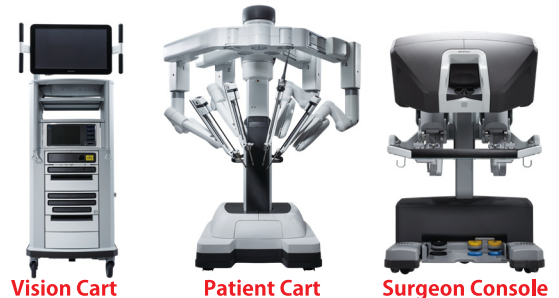
二酸化炭素を注入し、体内に空間を作って、体の中で行う手術



腹腔鏡手術には低侵襲という大きなメリットがある一方で、手術手技が開腹手術に比較して難しいといったデメリットがあります。例えば器に入った豆を隣の皿に移すという作業を想像してみてください。手で摘んで移す

のは簡単ですが、菜箸を使って豆を移すとすると、箸の使い方や力加減に慣れが必要で難しいですよ。手を使うのが開腹手術、菜箸を使うのが腹腔鏡手術のイメージです。したがって腹腔鏡手術を習得するには多くの経験が必要で、優秀な専門医を育てることに時間がかかることや、術者や施設などによって治療成績に差が出てしまうことが最大の問題でした。

da Vinci® Xi system (第4世代)



da Vinciを始めとする手術支援ロボットは、この腹腔鏡手術の難度を著しく低減することが可能で、現在29の手術が保険適応となり、650台を超すロボットが全国で稼働しています。ロボットを用いることで腹腔鏡手術が易しく実施できるようになれば、経験の少ない外科医でも質の高い手術を行うことが可能となります。また、経験豊富な外科医にとっては腹腔鏡手術の適応が広がり、従来の腹腔鏡手術単独では困難とされた患者さんに対しても低侵襲手術が提供できることが期待されます。

da Vinciは米国で開発され、1999年に臨床応用が始まりました。当院に導入されたda Vinci Xiは北里大学病院と同じ最新型の第4世代に当たります。近年、複数の手術支援ロボットが開発されていますが、25年に及ぶ臨床実績は大きな信頼に値すると考えています。この最新機器を積極的に使用し、多くの患者さんに安全で、質の高い低侵襲手術が提供できるよう努力していきたいと思っております。